

## 第10 調布市福祉人材育成センターの運営

番号	事業名	財源			
		自主	補助	委託	事業
(1)	調布市福祉人材育成センターの運営 (重点項目)		市	市	○

## 1 福祉人材の養成

結果の概要

- 新型コロナウイルスのため令和2年度中止した、同行援護従業者養成研修（一般課程・応用課程）、調布市高齢者家事援助ヘルパー養成研修（1回目、2回目）を2年ぶりに実施することができた。
- 介護職員初任者研修と調布市高齢者家事援助ヘルパー養成研修は新型コロナウイルス対策のため定員を少なくして実施した。また、介護職員初任者研修ではホームヘルプ同行実習を、知的障がい者（児）移動支援従業者養成研修では現場実習を中止し、演習プログラムで対応した。
- 調布市高齢者家事援助ヘルパー養成研修は2回とも定員上限の受講生が参加した。
- 同行援護従業者養成研修では14人が修了し、そのうち9人がガイドヘルパーとしての活動を希望し、事業所に登録の相談をしている。
- 資格研修全体の受講者数は169人で令和2年度よりも約100人増加した。一方、定員充足率は78%で令和2年度よりも4ポイント下降した。
- 資格研修の修了者アンケート回答者の96%が研修について「大変満足」「満足」と回答している。
- 福祉のしごと相談・面接会では令和2年度よりも参加者が21人多い59人だった。就職者は10人で就職率は17%だった（令和2年度は18%）。事業所のPRについては動画を作成し、期間限定で配信した。

実績等

## ○資格研修の参加状況

講義	実習	内容	講師	受講者 (定員)	定員 充足率	修了者
1/12～ 1/15	/	同行援護従業者養成 研修一般課程	・東京都盲人福祉協 会職員2人 ・他外部講師3人	16 (16)	100%	15
1/21 1/22	/	同行援護従業者養成 研修応用課程	・東京都盲人福祉協 会職員2人	15 (16)	93%	14
9/13～ 11/19	10/18～ 11/5	介護職員初任者研修	・調布ゆうあい福祉 公社職員5人 ・調布市ちょうふの 里職員7人 ・他外部講師10人	14 (16)	88%	14
6/5 6/6	6/12 (演習)	知的障害者移動支援 従業者養成研修（第 1回）	・調布市社会福祉事 業団職員4人	中止 (20)	中止	/
10/9 10/16	10/17 (演習)	知的障害者移動支援 従業者養成研修（第	・他外部講師5人	27 (30)	90%	25

		2回)				
2/20 2/26	2/27 (演習)	知的障害者移動支援 従業者養成研修(第 3回)		16 (20)	80%	13
10/29 10/30	11/4~ 12/28	重度訪問介護従業者 養成研修	・調布市社会福祉事 業団職員3人 ・他外部講師3人	8 (15)	53%	8
12/10 ~12/15		行動援護従業者養成 研修	・外部講師10人	23 (24)	96%	23
8/2~ 8/11	8/11 (演習)	調布市高齢者家事援 助ヘルパー養成研修 (第1回)	・調布ゆうあい福祉 公社職員5人 ・他外部講師8人	16 (16)	100	15
2/1~ 2/11	2/11 (演習)	調布市高齢者家事援 助ヘルパー養成研修 (第2回)	・調布ゆうあい福祉 公社職員5人 ・他外部講師8人	18 (18)	100	15
7/24 7/25	実地研 修 7/26 ~10/29	医療的ケア支援者養 成研修(特定の者) (第1回)	・外部講師2人	6 (10)	60%	6
11/27 11/28	実地研 修 11/29 ~2/28	医療的ケア支援者養 成研修(特定の者) (第2回)		5 (10)	50%	5
なし	4/1~ 3/31	医療的ケア支援者養 成研修(特定の者) (実地研修のみ)	なし	5 (定員無)		3
合計				164 (211)	78%	156
				5 (定員無)		3
				169		159

※定員の合計は中止となった研修を除く

○資格研修受講者の概況

①参加人数と定員充足率の推移(過去3年)(単位:人)

	令和元	令和2	令和3
同行援護(一般課程)	16(100%)		16(100%)
同行援護(応用課程)	16(100%)		15(93%)
介護職員初任者研修	19(95%)	16(100%)	14(88%)
移動支援	27(67%)	16(100%)	43(86%)
重度訪問介護	7(46%)	7(46%)	8(53%)
行動援護	20(45%)	24(100%)	23(96%)
家事援助ヘルパー	18(45%)		34(100%)
医療的ケア支援者養成研修(特定の者)	7(35%)	4(40%)	11(55%)
合計	130(69%)	67(82%)	169(88%)

※医療的ケア支援者養成研修(特定の者)の実地研修のみの受講者は除く

②令和3年度受講生性別・平均年齢

	男性	女性	平均年齢(歳)
同行援護(一般課程)	3	13	56.5
同行援護(応用課程)	3	12	55.9
介護職員初任者研修	4	10	48.1
移動支援	12	31	48.8
重度訪問介護	1	7	51.3
行動援護	11	12	46.3
家事援助ヘルパー	8	26	54.7
医療的ケア支援者養成研修(特定の者)	6	10	39.6
合計	48	121	50.2

③令和3年度受講生の受講動機(複数回答)

	資格を取得して就労したい	現在の業務に役立たい	介護・障がいについて学びたい	高齢者・障がい者(児)を支援したい	地域の役に立ちたい	その他
同行援護(一般課程)	11	6	11	14	11	0
同行援護(応用課程)	11	5	10	13	10	0
介護職員初任者研修	9	3	12	8	7	0
移動支援	17	29	26	30	20	0
重度訪問介護	3	3	5	2	0	0
行動援護	3	21	12	9	5	1
家事援助ヘルパー	7	1	18	10	10	4
医療的ケア支援者養成研修(特定の者)	0	10	2	2	1	0
合計	61	78	96	88	64	5

④令和3年度修了生の研修満足度

	とても満足	満足	まあまあ	やや不満	不満
同行援護(一般課程)	12	3	0	0	0
同行援護(応用課程)	12	2	0	0	0
介護職員初任者研修	8	5	1	0	0
移動支援	18	19	1	0	0
重度訪問介護	4	3	1	0	0
行動援護	19	4	0	0	0
家事援助ヘルパー	20	9	1	0	0
医療的ケア支援者養成研修(特定の者)	7	2	0	1	1
合計	100	47	4	1	1

※アンケート提出者153人の回答を集計

⑤令和3年度新規活動者数（新規・継続）

新規：資格をいかして事業所に登録した者、新たに福祉分野で活動を開始した者

継続：福祉職として継続して従事している者

その他・不明：無職、福祉職以外の職を継続従事している者、その後の活動が不明の者

	新規	継続	その他・不明	
同行援護（一般課程）	9	0	5	※応用課程修了生(14人)
同行援護（応用課程）				
介護職員初任者研修	6	4	4	
移動支援	2	25	11	
重度訪問介護	1	0	4	※修了生アンケート回収(5/8人)結果
行動援護	0	20	3	
家事援助ヘルパー	8	0	7	※第1回修了生(15人)アンケート結果
医療的ケア支援者養成研修(特定の者)	0	16	0	第2回修了生(15人)はアンケート実施中
合計	26	65	34	

※アンケート提出者125人の回答を集計

○就労支援事業の概況

日	時間	内容	出展事業所	参加者	新規就労者数
11/20 (日)	14:00~ 16:00	福祉のしごと相談・面接会	10	59	10(17%)

○就職説明会の参加者の現在の仕事

	福祉職	主婦	学生	無職	その他
福祉のしごと 相談・面接会	12	8	6	22	11

○就職説明会の参加者の保有資格（複数回答）

	初任者 研修	実務者 研修	介護 福祉士	社会 福祉士	看護師	資格なし	その他
福祉のしごと 相談・面接会	24	2	18	2	1	15	12

分析・課題

- コロナ禍であっても、介護職員初任者研修や同行援護従業者養成研修等、身体的接触を伴う資格研修の申込への影響はなく、資格取得を希望する人が一定数いることがわかった。
- 受講動機を見ると、「介護・障がいについて学びたい」「高齢者・障がい者（児）を支援したい」等のやりがいや生きがいを求めるような内発的動機のものが多いことがわかった。「学びたい」「支援したい」という人たちが資格取得後に活動したいと思えるよう研修中に動機づけていくことが必要である。
- 資格研修受講者の満足度が非常に高い原因の一つに、当事者による講義を取り入れていることが挙げられる。アンケートの自由記述を見ると、当事者の話は受講生に強い印象を与えていることがわかる。資格取得後の活動への動機づけにつながると思われるため、今後も可能な限り当事者による講義を取

り入れたい。

○介護職員初任者研修ではホームヘルプ実習を中止したとしても、ホームヘルプの業務や魅力について伝えられる機会を提供できるように検討したい。

## 2 専門性の向上

### 結果の概要

- 集合型研修を9講座、Zoomによるオンライン研修を2講座、オンデマンド配信研修を12講座、合計23講座を実施した。集合型研修とオンライン研修のうち5講座はオンデマンド配信し、当日参加できなかった人も受講できるようにした。
- 年度初めは新型コロナウイルスにより集合型研修を実施するのが困難であると予測されたため、オンデマンド配信型の研修を集中的に実施した。
- 配信型研修では長時間視聴により集中力が欠ける等の課題があったため、内容ごとに分割して配信を行った。
- 中堅職員研修は対象者の範囲が広い、「中堅職員」と「チームリーダー」に分けて実施した。階層別研修のなかでは初めて実施した「チームリーダー研修」がもっとも参加者が多かった。
- 階層別の管理職研修を実施しない代わりに、管理的立場の職員をターゲットに「強い組織をつくる～人材育成と組織の継承～」研修を実施した。アンケート結果を見ると、参考になったという感想が多く、ニーズにあった研修を提供することができた。
- 家族支援をテーマにした研修を初めて実施した。市内の学童保育所や保育園を含めて広報したところ、合計80人が受講し、児童・保育分野のニーズにあった研修を提供することができた。
- 専門研修全体の参加者は1263人で昨年度よりも大幅に増加した（令和2年度267人）。
- 申込、アンケート調査をWeb上で行ったことで集計に要する時間を短縮できた。

### 実績等

○専門研修の参加状況

#### ①階層別研修

日	時間	タイトル	講師	受講者数 (定員)	定員 充足率
7/9 (金)	13:30～ 17:00	階層別研修 福祉職員 初任者研修 A 講義編	山本雅章氏（調布市社会福祉事業団）	17 (25)	68%
7/16 (金)	14:00～ 16:30	階層別研修 福祉職員 初任者研修 B マナー編	大村逸子氏（マナー講師）	7 (25)	28%
8/27 (金)	13:30～ 17:00	階層別研修 福祉職員 中堅職員研修 A 講義編	山本雅章氏（調布市社会福祉事業団）	10 (25)	40%
9/1 (水)	14:00～ 16:30	階層別研修 福祉職員 中堅職員研修 B SST編	清水有香氏（精神保健福祉士）	7 (10)	70%

第1部 第10調布市福祉人材育成センターの運営

10/22 (金)	13:00~ 16:30	階層別研修 福祉職員 チームリーダー研修	山本雅章氏 (調布市社会福祉事業団)	22 (25)	88%	
11/25 (木) ~1/28 (金)	オンデマ ンド配信	階層別研修 福祉職員 初任者研修 A 講義編	山本雅章氏 (調布市社会福祉事業団)	18		
		階層別研修 福祉職員 中堅職員研修 A 講義編	山本雅章氏 (調布市社会福祉事業団)	18		
		階層別研修 福祉職員 チームリーダー研修	山本雅章氏 (調布市社会福祉事業団)	35		
合 計				定員有	63 (110)	57%
				定員無	71	
				全体	134	

②テーマ別研修

日	時間	タイトル	講師	受講者数	定員充足率
4/26(月)~6/25 (金)	オンデ マ ン ド 配 信	福祉職の担い手にとって「学ぶ」ということ	結城俊哉氏 (立教大学)	77	
		知的障がいのある人の認知症	木下大生氏 (武蔵野大学)	90	
		医療的ケアって大変な事なの？	下川和洋氏 (地域ケアさぽーと研究所)	53	
		誰も孤立しない地域を作るために ~福祉職ができること~	渡辺裕一氏 (武蔵野大学)	94	
		福祉職としてのコミュニケーションの基本	中島悦子氏 (調布市社会福祉事業団)	110	
		障害の理解~障害を考える視点~	山本雅章氏 (調布市社会福祉事業団)	89	
5/17(月)~7/16 (金)	オンデ マ ン ド 配 信	尊厳の保持と自立支援	結城俊哉氏 (立教大学)	77	
		高齢者の生活を支援するために	小幡真也氏 (フロリアル調布)	34	
		高齢者の自立を支援するために	小幡真也氏 (フロリアル調布)	32	
		知的障害のある人への支援	伊藤巧氏 (ちょうふだぞう)	95	
		改めて自己決定について考える	稲沢公一氏 (東洋大学)	130	

10/20 (水) ~ 12/21 (火)	オンデマンド 配信	強い組織を作る～人材育成と組織の継承～	天野聖子氏 (多摩棕櫚亭協会前理事長)	43	
10/27 (水)	10:00～ 12:00	障害福祉サービスの請求事務の基本 (通所向け)	小島秀人氏 (調布市障害福祉課)	10 (20)	50%
10/27 (水)	13:30～ 15:30	障害福祉サービスの請求事務の基本 (訪問向け)	小島秀人氏 (調布市障害福祉課)	6 (20)	30%
11/24 (水) ~ 1/18 (火)	オンデマンド 配信	障害福祉サービスの請求事務の基本	小島秀人氏 (調布市障害福祉課)	60	
12/2 (木)	ZOOMによる ライブ配信	発達が気になる子どもの家族支援	井上雅彦氏 (鳥取大学)	7	
12/21 (火) ~ 2/20 (日)	オンデマンド 配信	発達が気になる子どもの家族支援	井上雅彦氏 (鳥取大学)	73	
3/2 (水)	ZOOMによる ライブ配信	福祉職員のための記録の書き方研修	保正友子氏 (日本福祉大学)	17 (30)	57%
3/4 (金)	13:00～ 17:00	チーム力を高めるケースカンファレンス	長沼葉月氏 (東京都立大学)	8 (24)	33%
3/11 (金)	10:00～ 12:30	障がい者虐待防止研修～福祉職のダークサイドを考える～	結城俊哉氏 (立教大学)	24 (30)	80%
合 計			定員有	65 (124)	52%
			定員無	1069	
			全体	1129	

※オンデマンド配信研修は申込者数を受講者数としてカウントしている。定員はなし。

○専門研修 (集合型・ライブ配信型) の学んだことの実行度 (単位: 人)

	おおいに実行 している	どちらかと言 えば実行して いる	どちらとも言 えない	どちらかと言 えば実行して いない	実行してい ない	実行する機 会がない
初任者 A	2	9	1	1	0	1
初任者 B	4	1	1	0	0	0
中堅 A	1	4	3	0	0	0
中堅 B	0	4	0	0	0	0
チームリーダー	2	8	3	0	0	0
請求事務	5	3	1	0	0	0
発達が気になる子 どもの家族支援	0	1	1	0	0	0

記録の書き方	3	5	4	0	0	0
カンファレンス	0	3	0	1	1	1
ダークサイド	4	10	2	1	0	1
合計	21	48	16	3	1	3
(%)	(23%)	(53%)	(17%)	(3%)	(1%)	(3%)

※アンケート提出者 92 人の回答を集計

### 分析・課題

- 研修の参加者が大幅に増加したのは積極的にオンデマンド配信を行ったためと考えられる。オンデマンド配信については、受講の機会を柔軟に確保できることから続けてほしいという要望が多いため、研修内容によっては今後も可能な限り実施したい。
- 専門研修受講者に研修修了後1か月後にアンケートを実施し、学んだことを実行できているか調査した。76%が「実行できている」「どちらかと言えば実行できている」と回答しており、実践に役立つ研修を提供できていると考えられる。また、1か月後にアンケートを実施することで、研修内容を振り返る機会となっている。
- 集合型の研修が少なかったため、各事業所の参加者同士の交流があまりできなかった。次年度は感染対策を講じた上で、可能な限り集合型の研修を実施したい。

## 3 市民参入に向けた普及啓発

### 結果の概要

- ふくしの窓や市報、ホームページに研修案内の記事や説明動画を掲載することで、福祉分野への市民の参入を図った。
- 福祉についての普及啓発を図るため、「福祉ヒューマンライブラリー」開催に向けて準備をすすめた。2月には市内の福祉職を対象にお試し開催をした。8人が参加し、全員が「本」役の人に対し理解が深まったと回答した。(※ヒューマンライブラリーとは人を本に見立てて貸し出す図書館のようなイベント。差別や偏見の軽減を目的とし、少人数で物語を聞くように対話を行う。)
- ホームページにて市内の福祉事業所の求人情報を掲載し、事業所と求職者が結びつくように支援した。

### 実績等

#### (1) ちょうふ福祉ヒューマンライブラリーミニのお試し開催

日時	2/16 (水) 10:00~11:30
場所	Zoomによるオンライン開催
本	「どうせ生きるなら～こころの病とともに生きる～」 ぴよんきち氏 「白杖は人をひきよせる」 KUCHIBUE 氏 「道～自分のカタチをつくるために～」 高S氏
参加者	8人

#### (2) ホームページへの求人情報の掲載件数 (単位: 件)

高齢	障害	保育	医療	その他	高齢・障害	障害・その他	計
8	6	3	1	0	0	6	24

### 分析・課題

○福祉ヒューマンライブラリーについて、参加者からは「少人数での対話方式だったためより詳細な体験を聞くことができた」、「当事者講演ではなく本に見立てて話してもらうことで身近に感じ、その方自身に触れやすいように感じた」等の意見があり、障がいのある方への理解がさらに深まる効果があったと思われる。

○求人情報の掲載については、調布市障害福祉課と連携を図りながら市内福祉施設の求人情報の集約について検討したい。

## 4 事業所あるいは職員間のネットワーク形成

### 結果の概要

○感染症拡大防止のためオンデマンド配信で開催した。先駆的にアウトリーチ型の居場所づくりを行っている市外事業所1か所と、市内の居場所3か所の実践紹介動画を配信した。また、市外事業所を利用する当事者のインタビュー動画を配信した。

○市内の居場所は現地取材して撮影したため、居場所の持つ雰囲気そのまま伝えることができた。

○108人の申込があり、多くは市内在住者と在勤者であった。民生児童委員の研修会で上映される等、民生児童委員の関心が高かった。

#### (1) 第5回ちようふ福祉実践フォーラムの内容

配信期間	タイトル	内容・	参加者
2/10(木)～ 3/31(木)	居場所をめぐる 多様な福祉のあ りかた	居場所をめぐる実践を展開している団体のインタビュー動画 ①やどかりの里（さいたま市） ②しばさき彩ステーション（調布市） インタビュー：小幡真也氏（フロリアル調布） ③Kiiitos（調布市） ④POSTO 仙川（調布市） インタビュー：名古屋一氏（ファーストステップ） ⑤まとめ 講師：結城俊哉氏	108

### 分析・課題

○動画配信方式であったため、福祉職同士の交流の機会を創出できなかった。アンケートの回収率が低かったため、オンデマンド配信の際は受講者の感想をどのように集めるか検討が必要である。

## 5 運営委員会

### 結果の概要

○学識経験者、関係機関、各ネットワークの代表、当事者を委員として運営委員を開催し、事業運営についての意見交換を行った。

### 実績等

○調布市福祉人材育成センター運営委員構成（敬称略）

任期：令和3年4月1日～令和5年3月31日

氏名	選出区分
結城 俊哉	学識経験者（立教大学教授）
伊藤 文子	市民有識者（訪問看護ステーションあんあん）
秋元 妙美	市民有識者（NPO 法人全国重度障害者支援協会 CIL ちょうふ代表）
進藤 美左	当事者又は家族会（調布市障害者（児）団体連合会）
及川 正文	地域関係機関（調布ゆうあい福祉公社）
伊藤 巧	地域関係機関（調布市社会福祉事業団相談支援事業所「ちょうふだぞう」）
河原 麻代	調布地域精神保健ネットワーク連絡会（R4年1月まで）
亀田 良一郎	調布市福祉作業所等連絡会
原口 彰男	調布市地域包括支援センター連絡会
小幡 真也	介護保険サービス事業者調布連絡協議会
垂水 哲哉	東京都福祉人材センター
八木 憲一	行政（調布市高齢者支援室）
小島 秀人	行政（調布市障害福祉課）
広田 茂雄	社協関係者（理事）
田島 誠	地域関係機関（調布市社会福祉協議会相談支援事業所「ドルチェ」）
清澤 茉莉子	調布地域精神保健ネットワーク連絡会（R4年2月から）

○令和3年度調布市福祉人材育成センター運営委員会開催状況

回数	開催日	内容	出席人数
第1回	5/14（金） オンライン	令和2年度事業報告・決算報告（案）、令和3年度事業計画	13
第2回	9/10（水） オンライン	令和3年度上半期事業報告、令和4年度の事業計画作成に向けて	15
第3回	12/21（水）	9～12月事業報告、今後の予定	12
第4回	3/11（月） オンライン	1～3月事業報告、令和4年度事業計画（案）について	14